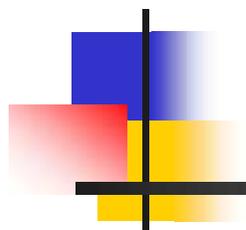
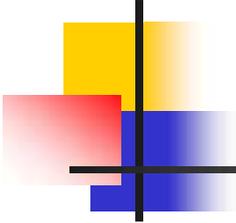


IPPCにおける国際認証



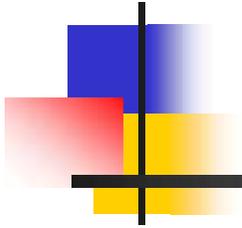
農林水産省
消費・安全局 国際基準課



伝えたいこと

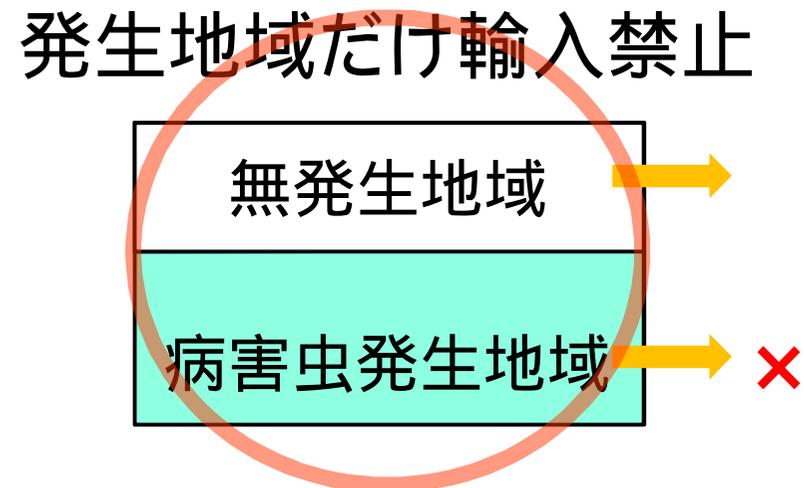
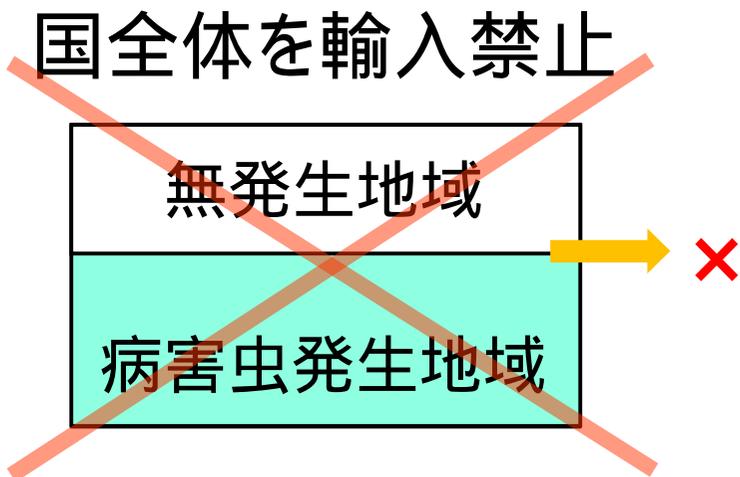
- 地域主義とは
- 先行している取り組み－OIE
- IPPCの状況
 - ・ 国際認証の検討状況
 - ・ 今後の展望

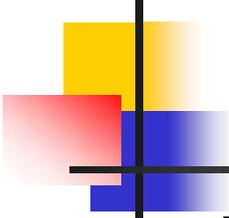
地域主義とは



地域主義とは

- 病害虫は、気候や地理的状況等により、**発生地域と無発生地域**が存在。また、このような発生状況の違いは、必ずしも国境と一致しない。
- **地域ごとの発生状況を考慮して**、製品の輸入に対する要件を調整しなければならない。(SPS協定第6条)





PFAの定義 (ISPM No.5)

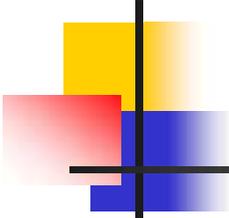
- PFA: Pest Free Area

ある特定の有害動植物が発生していないことが科学的な証拠により証明され、適切な場合、この状態が公的に維持されている地域。

例: 植物防疫法施行規則別表2

地域	植物	対象とする検疫有害動植物
…オーストラリア(タスマニアを除く)…	…なす科植物、ばら科植物…の生果実	チチュウカイミバエ

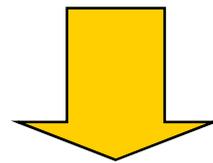
我が国は、タスマニアをチチュウカイミバエのPFAと認めている。



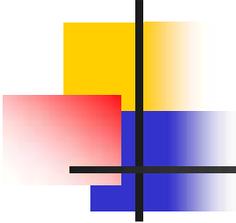
地域主義の認定

SPS協定第6条

- 加盟国は、有害動植物又は病気の無発生地域及び低発生地域の制度を認める。
- 自国の領域内の地域が有害動植物又は病気の無発生地域又は低発生地域であると主張する輸出加盟国は、…その主張についての必要な証拠を提供する。



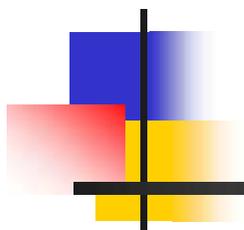
二国間協議による認定は時間がかかる



地域主義に関する主なISPM

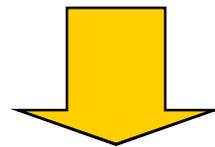
- 1995年 ISPM No.4 PFAの設定のための必要条件
- 1998年 ISPM No.8 ある地域におけるペスト・ステータス
- 2005年 ISPM No.22 ALPPの確立のための必要条件
- 2006年 ISPM No.26 ミバエ類のPFAの設定
- 2007年 ISPM No.29 PFA及びALPPの認定
- 2008年 ISPM No.30 ミバエ類のALPPの設定

先行している取り組み - OIE

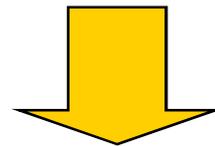


OIEにおける公式認定の必要性(1)

- 家畜の伝染病の流行・まん延防止のために最も重要なことは？



- 発生情報を速やかに各国が共有し、対策をとれるようにすること。

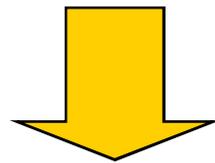


- 貿易の停止など不利益が生じても、発生した場合の**通報を確保**すること。

OIEにおける公式認定の必要性(2) 通報を確保するための方策

- 疾病が撲滅されれば、貿易が再開されるようにすることが必要

(例えば、口蹄疫の場合、摘発・淘汰を実施して清浄化しても、貿易再開につながらない現実)

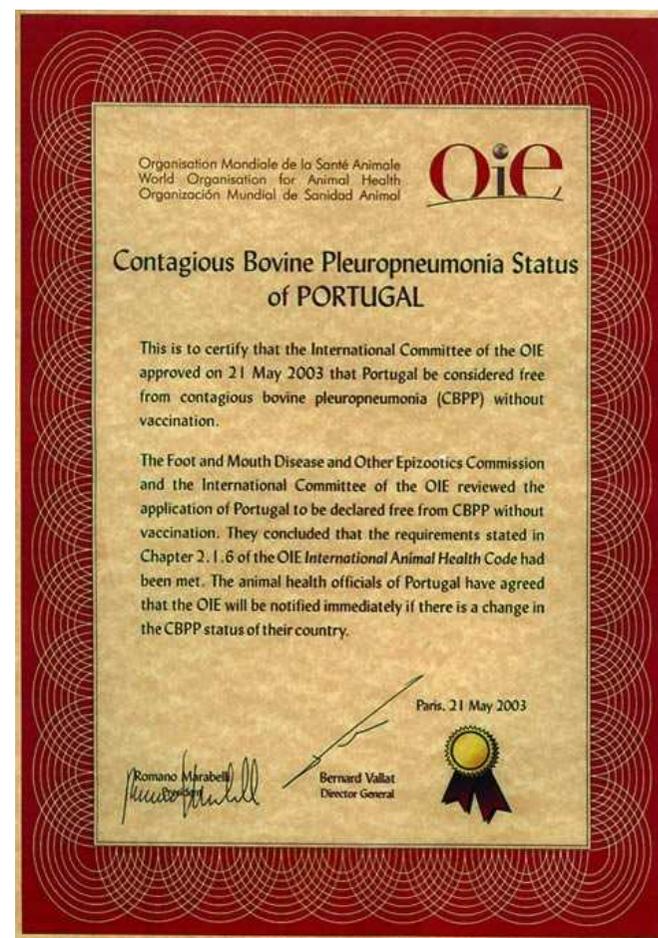


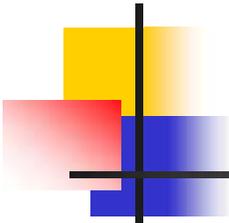
- OIEとして清浄性を認定(公式認定)

OIEの公式認定

- OIEは、1996年より各国からの要請に基づき、特定の疾病について清浄性の認定(有料)を実施。

- ・口蹄疫 1996年～
- ・牛疫 2000年～
- ・牛肺疫 2001年～
- ・BSE 2004年～



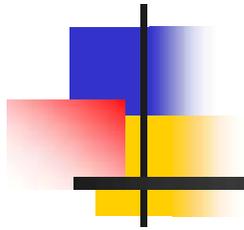


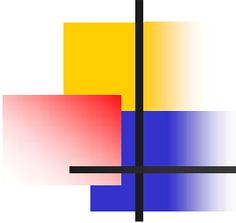
公式認定の効力

- OIEは、総会で採択されているので、OIEコードと同様に扱われるべきとの立場。
- SPS協定上の扱いは未定。
- 各国の対応もそれぞれだが、各国の受け入れが進んでいる。

- 日本は、考慮するが、別途リスク評価が必要との立場
- ECのBSEカテゴリーと国のリストは、OIE公式認定と整合

IPPCの状況

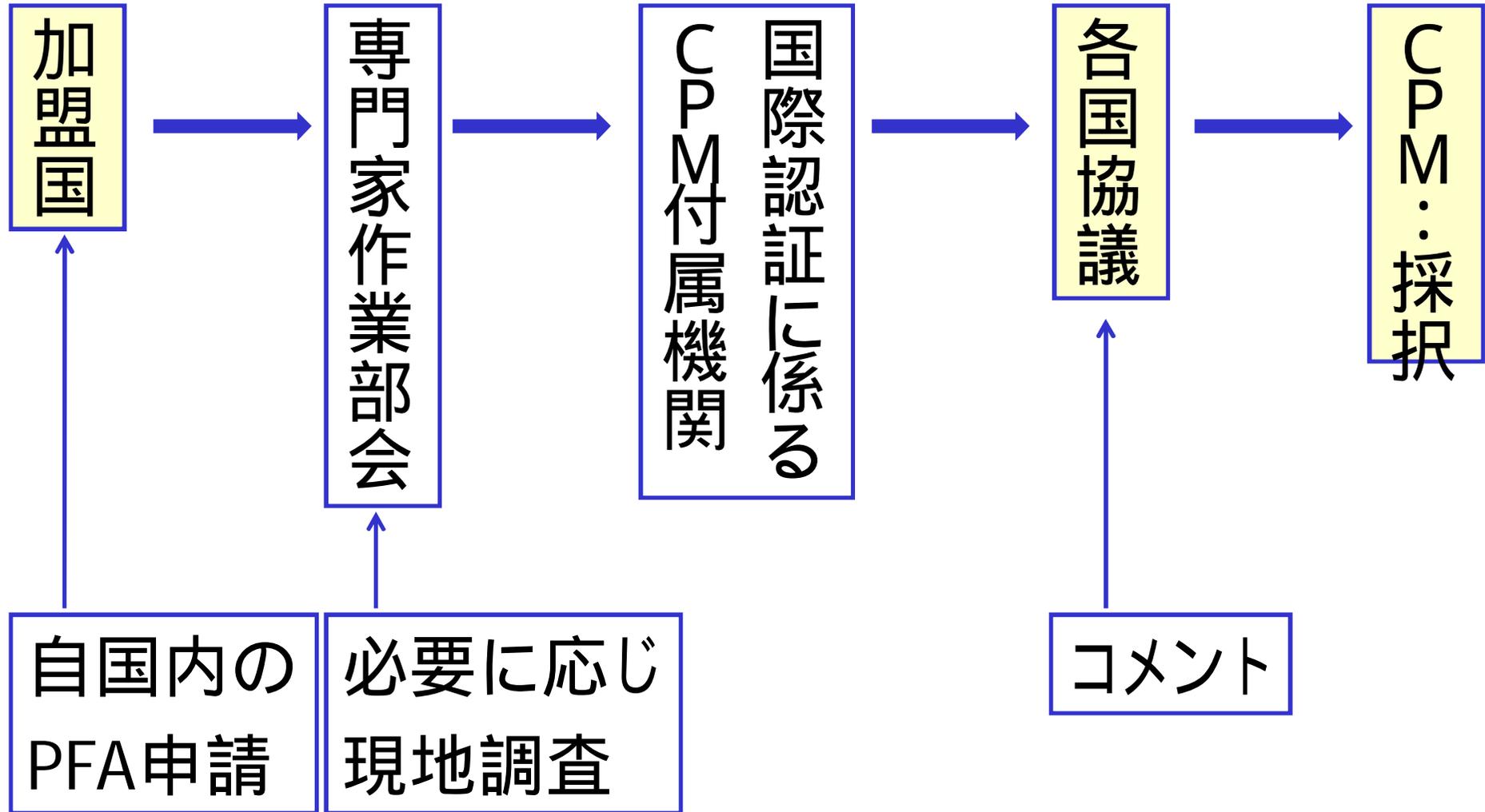


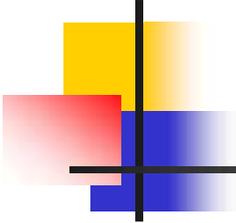


国際認証の検討状況

- 2005年、国際認証の実用性について検討することを決定。
- 2006年、当該検討グループの検討事項 (TOR) を決定。
- 2008年7月、公開作業部会 (OEWG) を開催し、検討。
- 2008年10月、OEWGの検討結果をSPTAで検討。

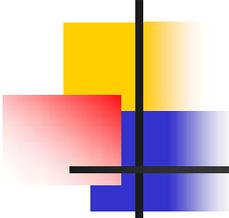
OEWGがイメージする国際認証





OEWGの結論

- 国際認証手続きの設定は有用。
- 国際認証手続きの実施は技術的に実施可能。
- しかしながら、IPPC事務局の持続的な財源が必要であり、実現が可能かどうかは財源及びその他のリソースが課題。



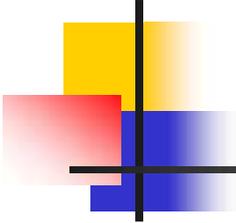
SPTAにおける検討と結論

■ FAO法務部見解

- ・ PFAの認証・設定はIPPCの責務を超えている可能性がある。
- ・ 各締約国の責任で、情報提供のため、PFAに関する情報をIPPに掲載することは可能。

■ SPTA見解

- ・ IPPCによるPFA認証システムの設立は不適當、かつ、法的に実現不可能な可能性。
- ・ 外部証明機関がPFA設定の基礎として使用するマニュアルの導入は、その作成に要するリソースの点で現時点では、実現不可能と思料される。



今後の展望

- CPM4において、OEWG、SPTAにおける結果を踏まえ、国際認証に関する今後の取り扱いを検討する予定。
- 農産物を輸出したい途上国から国際認証の実施を強く求める意見が出される可能性。